

## 『台湾で最も尊敬されている日本人—八田 與一(はったよいち)—』

5月9日の新聞に懐かしい名前が出ていました。

日本人技師 八田與一(はったよいち)が戦前、台湾で建設した烏山頭(うさんとう)ダムの着工100年を祝う式典が5月8日、台南市の八田與一記念公園で行なわれてとの記事でした。数年前、東華ロータリーの記念行事で台北を訪れた時、オプションで台南を観光しました。丸山先生、清水さんなど数人が参加し、烏山頭ダムを訪れました。その時初めて、八田與一の事を知ったのです。

台湾南部の嘉南平野は広い面積を持っていましたが、灌漑設備がなく、田畑は常に旱魃の危機にさらされていました。

八田は大正7年に日本統治下の台湾総督府土木課の技師として、ダム建設を始めました。

八田は、民政長官の一任の下、河をせき止め、トンネルを建設して河から水を引き込んでダムを建設しました。その工期は1920年(大正9年)から1930年(昭和5年)に及び、総工費は当時の金額で5,400万円を要しました。

満水面積1000ha、有効貯水量1億5,000万 $m^3$ の大貯水池・烏山頭ダムとして完成しました。

このダムから嘉南平野一帯に16,000kmにわたって細かく水路がはり巡らされ平野を潤しています。

ダム建設に際して作業員の福利厚生を充実させ宿舎・学校・病院なども建設していました。

台南地域にとっての烏山頭ダムは、計り知れないほどの恩恵をもたらしました。八田の業績は、日本よりも台湾の方が有名で、中学生向け教科書に八田の業績が詳しく紹介されています。ダム完成後、昭和6年に住民と周囲の意見でユニークな銅像ができあがりました。一人熟考、苦悩する様子を模した銅像です。

八田與一は、1886年(明治19年)に石川県河北郡花園村(現在の金沢市)に生まれています。東京帝国大学工学部土木課を卒業後、台湾総督府内務局土木課に土木技師として就職しました。日本統治時代の台湾は、マラリアが流行するような未開の地でした。八田は各都市の上下水道の整備を担当していましたが、その後発電・灌漑事業部門に異動しています。当時の台湾は、インフラストラクチャー建設のまっただ中で、その中で水利技師としての腕を振るべく烏山頭ダム建設に向かったのです。

28歳のとき、石川県出身の外代樹(とよき)と結婚し、共に建設に携わりました。ダム建設後、1939年(昭和17年)5月、陸軍の命令によって3人の部下と共に、フィリピンの綿作灌漑調査のため五島列島付近を航行中にアメリカ軍の潜水艦によって撃沈され死亡しました。日本の敗戦後の1945年(昭和20年)9月1日、妻の外代樹も夫の後を追うようにして烏山頭ダムの放水口に身を投げて自殺しています。

5月8日の100周年式典には、台湾の蔡英文総統、頼清徳副総統と蘇貞昌行政院長(首相に相当)が出席しました。外国が関わる歴史イベントに、台湾政治トップ3人が出席することは、極めて異例の事です。

蔡氏は「100年前に烏山頭ダムを作った八田與一の先見の明、勇気と行動力を学び、台湾と日本は新型コロナウイルス対策や気候変動問題などで協力関係を密にし、100年後の子孫に良い環境を残せるように努力したい」と述べています。

台湾に大きな影響を与えた日本人がいたことを記憶しておいて下さい。

